

「作業に焦点を当てた実践に関するアンケートのお願い」 ～臨床現場におけるOBPと作業療法理論の活用状況～

本調査は作業療法実践に関するアンケート調査です。

私たちは、臨床現場で作業に根ざした実践（OBP）と作業療法理論の活用状況について、下記の目的で調査をしております。つきましては皆さんの臨床でのお考えについてお答えください。右記のQRコードよりご協力をお願い致します。なお、OBPを実践されていない方についてもご回答いただきたく、よろしくお願致します。



<アンケートの目的>

- ①OBPおよび理論使用は領域によって異なるか
(OBPは作業療法実践においてどの領域に取り入れられているか)
- ②OBPにおける理論の有用性をどのように認識しているか
- ③OBPのために作業療法理論をどのように使用しているか

以上3点を明らかにすること

<OBPの定義>

- ・クライアントにとって目的や価値を持つ作業に焦点を当て、作業を基盤として用いた実践

<対象者> 作業療法士

当アンケートの回答に要する時間は約5分です。
お忙しい中お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願致します。

※回答者全員にお答えいただきたい項目については「必須回答」と設定致しました。

【調査期間】

令和4年3月1日～ 令和4年5月31日

研究代表者：新泉一美

所属：東京医療学院大学

連絡先：TEL；048-373-8118（代表）

Email；kaz-niz-245@u-ths.ac.jp

共同研究者：佐々木剛（茨城県立医療大学）

春口麻衣（ヌギコー訪問看護ステーション）

清田直樹（目白大学）

山田孝（人間作業モデル研究所，

東京保健医療専門職大学）